

大学生の地域における関心対象に関する研究

酒井 聡一*

本研究では、大学生を対象として地域において関心を示す対象とその理由を分析し、ふじみ野市在住者を対象とした愛着に関する研究と比較を行い、年代の違いによる愛着・関心対象の共通点や相違点を考察した。

大学生の関心の対象として「自然」が多く、60代以上の回答者が大部分を占めたふじみ野市における在住者の愛着の対象と同様の結果が得られた。また、「シンボル」は大学生だけが関心対象として挙げた項目であり、大学生は外見の印象から対象に関心を持つことが理解でき、地域への愛着の対象にはなりにくい。在住者から愛着を感じる理由として多く挙げられた「人との交流」は、大学生が対象に関心を持つ理由としては少数であり、人とコミュニケーションを取る機会の少なさによるものと考えられる。

自治体などから観光マップが発行されているが、珍しい・面白いものなどの若い世代が関心を持つようなシンボリックな存在を掲載することも、若い世代に対して「まち」への関心や興味を喚起する手段として考えられる。

Key Words : 地域における関心, 大学生, 意識調査分析

1. はじめに

近年、各地域において環境の保全・創出や安心・安全の確保、景観づくりなど、様々な目的の地域活動が行われており、その活動の主体は自治体ばかりでなくその地域に住む人も参加し、住民が主体となった活動も多く見られるようになってきている。また、総務省統計局（2007a）の平成18年社会生活基本調査によると、ボランティア活動の種類別行動者率では「まちづくり

* 文京学院大学環境教育研究センター

のための活動」が最も高く、地域や社会の課題を改善し、住みよいまちを構築していくという活動への関心が高いことがうかがえる。

このような地域活動において、将来における地域社会の担い手である若い世代の積極的な参加が期待されるが、同調査では20代の若い世代のボランティア活動の行動者率が他の年代と比較して低いことが示されている。各ボランティアの中で最も行動者率が高かったまちづくりに関する活動に注目しても20代の行動者率が最も低く、他の年代の約1/2～1/5程度と若い世代の行動者率が低い傾向が見られ（総務省統計局（2007b））、若い世代の地域への積極的なかわりが少ないと言えよう。さらに11カ国の18～24歳の青少年を対象とした1998年の調査では、ボランティア活動に現在参加中の青少年の割合は、諸外国と比較して日本は低いものとなっており（「ボランティア白書2003」編集委員会（2003））、地域社会の担い手として期待される若い世代の地域への関心の喚起や地域社会への積極的な関与を促すことが重要となってくるであろう。

鈴木・藤井（2008）は、地域愛着が高い人ほど地域活動に熱心であり、他者への依存が低い傾向があることを指摘していることから、若い世代の地域活動への積極的な参加を促すには、地域に関心を持たせることが重要であると考え、そのためには、将来、まちづくり等の活動の中心になる若い世代が、地域のどのようなものに関心を持っているのかを理解する必要がある。酒井（2010）は、文京学院大学が位置する埼玉県ふじみ野市を対象に、市民が愛着を感じる対象を調査した。本調査への回答者の全員が40代以上であるため、課題として若い世代がまちに対して愛着や関心を感じる対象を分析する必要がある。

本研究では、将来における地域社会の担い手として期待される大学生を対象として、大学生が地域において関心を示す対象とその理由を分析することを目的とする。また、酒井（2010）による埼玉県ふじみ野市を対象とした住民の地域への愛着に関する調査との比較を行い、年代の違いによる地域における愛着・関心の対象の共通点や相違点を考察する。

2. 調査概要

本調査は、文京学院大学環境教育研究センターの活動に参加している学生を対象として、2011年6月下旬～9月下旬の期間中に随時調査を依頼、実施した。環境教育研究センターの活動に携わる学生は、日頃のセンター活動で地域に出ることが多く、私生活だけではなくセンター活動の中でも地域の魅力や課題を発見できる機会が多いと考えられる。

本調査では、「あなたが住んでいる地域や外出先で関心を持ったものを撮影してください」と依頼し、「愛着を感じるもの・おすすめのもの・おもしろいと思ったもの」、「今後も残していきたいと思ったもの」、「課題と感じたもの・改善が必要と感じたもの」の3つの視点から、魅力のあるものだけではなく課題と感じるものも含めてカメラで撮影するよう依頼した。関心を持った対象の撮影には、調査協力者が所有する携帯電話のカメラ機能を用いることにした。日常的に

カメラを携帯でき、気がついたときにいつでも撮影できるというメリットがある。また、撮影対象、理由、撮影対象の場所を入力した携帯電話メールに写真を添付して送信してもらうことで、撮影している対象や理由等を明確に把握できるようにした。調査の協力依頼をした17名のうち9名から47件の回答が得られた。調査の概要を表1に示す。

また本研究の結果と、ふじみ野市を対象に地域で愛着を感じるものを調査した酒井（2010）の研究結果を比較し、年代による地域における愛着や関心の違いを考察するため、ふじみ野市を対象とした愛着に関する調査の概要も表1に示す。

表1. 調査概要およびふじみ野市を対象とした愛着に関する研究との比較

	本研究			ふじみ野市を対象とした研究 ^(注1)				
対象者	文京学院大学 環境教育研究 センターの学生 (回答者数9名)	回答者基本属性			ふじみ野市在住者 (回答者数16名、 ただし1名は住所は 未記入)	回答者基本属性		
			項目	人数			項目	人数
		性別	男性	4		性別	男性	8
			女性	5			女性	8
		学年	1年	0		年代	30代以下	0
			2年	2			40代	1
			3年	5			50代	2
			4年	2			60代	7
		現住地	埼玉県ふじみ野市	0		居住歴	70代以上	6
			埼玉県内（ふじみ野市以外）	4			5～10年	0
埼玉県外	5		11～20年	4				
居住歴	5年未満	1	21～30年	2				
	5～10年	0	31～40年	7				
	10年以上	8	41年以上	3				
調査時期	2011年6月下旬～9月下旬の期間中に随時調査を依頼 (回答期間は1週間 ^(注2))			2010年9月上旬～10月下旬（本期間中に開催された3つのイベント参加者に調査を依頼。回答期間は約2週間）				
対象地域	居住地や外出先など			ふじみ野市				
調査対象者の 選び方	環境教育研究センターの活動に参加中の学生に調査を依頼			以下の3つのイベント参加者を中心に質問紙を配布して調査を依頼。 ・文京学院大学環境教育研究センター、心理臨床・福祉センター「ほっと」、地域連携センターBICSの合同企画の地域交流会「深めよう！！きずな」 ・市民活動団体開催の「環境セミナー」 ・ふじみ野市開催の「環境フェア」				
調査方法	携帯電話のカメラ機能を用いた被写体の撮影と、メール機能による写真、撮影対象、撮影理由の提出			質問紙による自由記述調査				
質問内容	関心を持ったもの（以下の3つの視点から） ・愛着を感じるもの、おすすめのもの、おもしろいと思ったもの ・今後も残していきたいと思ったもの ・課題と感じたもの、改善が必要と感じたもの			愛着を感じるもの				

注1：酒井（2010）を参考に、一部加筆をして筆者が作成。

注2：回答期間を過ぎても回答がない場合は、適宜回答期間を延長して回答を促した。

3. 大学生の地域における関心対象

3.1 大学生が関心を持つ対象の分析

大学生が地域のどのようなものに関心を持っているかを理解するために、関心を持つものとして撮影された写真をカテゴリ（以降、「関心対象」とする）に分類した結果を表2に示す。なお、カテゴリへの分類は、写真および写真送信時にメールに入力された「何を撮影したのか」から判断し、これらの情報から判断が困難な場合には「撮影した理由」を参考に分類を行った。

表2. 地域における学生の関心対象

関心対象	件数	人数	内容例
自然	11	5	森林、花畑、桜、川など
景観・風景	9 (3)	4	空、駅のロータリー、電線にとまる鳥など
施設	6 (1)	5	公園、公共施設、パーキングエリアなど
道路	5 (5)	3	道路
シンボル	5	4	時計台、SL、像など
歴史	3	3	寺、大仏など
イベント	2	2	お祭りなど
人とのつながり	2	1	友人
その他	4	4	動物、食べ物

件数のカッコ内の数値は、課題として挙げられた件数を示す。

大学生が関心を持つ対象として最も多かったものは「自然」であり、次いで「景観・風景」「施設」「道路」「シンボル」の順となった。

関心対象として上位に挙げられたこれらの項目に着目すると、「自然」として挙げられた対象には、緑が豊かな場所のほか、田んぼや花畑、桜などの植生が見られる場所などがあり、すべてが魅力のある場として捉えられている。

次いで多かったのが「景観・風景」であり、具体的な内容として空の美しい風景やガラスに映る空模様など、約半数が空に関するものであった。しかし9件中3件は、駅前の電線に多くのムクドリがとまっている様子やマンション建設による景観等の悪化といった、魅力ではなく課題として関心を持っていた。

「施設」はパーキングエリアや公園、昔の村の一部を再現したものなどが挙げられた。これらの対象に関心を持った理由としては、珍しさや自然環境の良さ、子どものころから存在しているため自分のまちと感じられるなどが挙げられ、様々な視点から関心を持っている。「施設」において1件が課題として挙げられたが、この施設から発生する騒音から課題のある場として捉えられていた。

「道路」は関心対象として比較的多く挙げられたが、すべて課題として関心を持っており、見通しの悪さや歩道の狭さなど、危険性という視点から道路に関心を示しているといえる。

「シンボル」については、地元で有名な郵便ポストや観光地の時計台、珍しい像などが挙げられ、その地域でのシンボリックな存在であるものに加え、珍しいものや見ていて面白いものなどの外見の印象から関心を持った対象といえよう。

3.2 関心を持った理由の分析

撮影した写真の送信時に撮影した理由も入力するよう依頼したが、この撮影理由をカテゴリに分類し、どのような理由によって対象に関心を持つのかを分析する。撮影理由をカテゴリに分類する作業において、1つの撮影理由に複数の要素が含まれる場合には、それらを個々に抽出し、各要素をカテゴリに分類する。例えば、「自然が多く、季節を感じることができる風景であり、心が安らぐ場所だから」という理由だった場合は、「自然が多い」「季節を感じることができる」「心が安らぐ」という3つの要素を抽出し、それぞれをカテゴリに分類した。ただし、1枚の写真ごとに添えられた理由から要素を抽出してカテゴリに分類するとき、同様のカテゴリが複数存在した場合は、重複集計せずに1件とした。また、各カテゴリがどの関心対象に対する撮影理由から抽出されたものかも集計した。これらの結果を表3に示す。

表3より、「景観・風景の良さ」の件数が特に多く、「自然環境の良さ」「心の空間」「危険性」の順に多く挙げられた。「景観・風景の良さ」は全回答者9名中7名から15件抽出され、複数の回答者が対象に関心を持つ理由と考えられる。抽出された件数の順では「自然環境の良さ」「心の空間」「危険性」と続くが、各カテゴリを挙げた回答者の人数に注目すると、この3つのカテゴリに加えて「景観・風景の悪さ」「シンボリックな存在」「人との交流」も3名から挙げられており、「景観・風景の良さ」を除いては、大学生が特定の理由によって対象に関心を持つような目立った傾向は見られなかった。

各カテゴリがどの関心対象から抽出されたかの関係について見ると、「景観・風景の良さ」が理由となって関心を持ったものの多くは「自然」と「景観・風景」である。「自然環境の良さ」は、「自然」に関心を持った理由として多かったが、他の関心対象（「景観・風景」「施設」「歴史」）と大差なく、特定の関心対象に対する理由となるような傾向は見られなかった。また、「心の空間」は、5件中4件が「自然」に関心を持つ理由として抽出され、自然豊かな場が癒しや落ち着き、懐かしさを与えることで「自然」に関心を持たせている。

「危険性」はすべて「道路」に対する理由であり、これらは課題として関心を持っており、同様に「景観・風景の悪さ」も「景観・風景」に対して課題として関心を持たせる理由となっている。

「シンボリックな存在」と「人との交流」は、件数は多くないものの様々な対象に対して関心を持たせる理由となっていることが読み取れる。「珍しさ」も件数は多くないが、外見の印象が理由となって「シンボル」や「施設」に対して関心を持たせていることが示された。

表3. 関心を持った理由の抽出と分類

カテゴリ（理由）	件数	人数	内容例	関心対象
景観・風景の良さ	15	7	「綺麗」, 「季節によって雰囲気が変わる」, 「神秘的」 など	自然（6件）
				景観・風景（5件）
				施設（2件）
				イベント（1件）
				歴史（1件）
自然環境の良さ	6	3	「緑が多い」, 「自然豊か」, 「緑に囲まれている」 など	自然（3件）
				景観・風景（1件）
				施設（1件）
				歴史（1件）
心の空間	5	3	「残していきたい場所」, 「懐かしい気持ちになる」 など	自然（4件）
				施設（1件）
危険性	5	3	「見通しが悪く事故が起きそう」, 「歩道が狭く危険」 など	道路（5件）
景観・風景の悪さ	3	3	「見通しが悪くなった」, 「ムクドリが多くとまっている」 など	景観・風景（3件）
シンボリック的存在	3	3	「観光客が多く訪れる場所」, 「地元で有名」 など	シンボル（1件）
				歴史（1件）
				その他（1件）
人との交流	3	3	「普段接する機会のない人と触れあえた」, 「友人」 など	人とのつながり（1件）
				イベント（1件）
				施設（1件）
珍しさ	3	2	「このような像がここに建っていることが不思議」, 「県のマスコットが描かれていてユニーク」 など	シンボル（2件）
				施設（1件）

3件以上のみ掲載

4. 考察

本研究では大学生が居住地や外出先などで関心を持った対象を調査した。ふじみ野市を対象に地域で愛着を感じるものを調査した酒井（2010）の研究では、回答者の年代は40代以上であり（さらに回答者16名中13名が60代以上）、この結果と比較を行うことで年代による地域における愛着や関心の違いを考察する。表1に示すとおり、本研究と酒井（2010）の研究では調査の対象地域や調査方法、質問内容の点で異なっているが、その中から共通点や相違点を見てみる。以降、ふじみ野市を対象とした地域で愛着を感じるものの調査結果を「在住者」の調査結果とする。

愛着や関心を持った対象について見ると、在住者が愛着を感じるものとして最も多く挙げられたのは「自然」であり、大学生が関心を持つものと同様の結果が得られ（表2）, 「自然」は年代に関係なく地域において愛着や関心を持たれる対象となるといえよう。一方, 「景観・風景」は、大学生は魅力のあるものとして6件挙げているが、在住者は「風景・景観」に類似するカテゴリとして「町並み」が1名から3件挙げられているだけだった（魅力であると同時にこの

町並みは改善が必要なものとしても指摘されていた)。これは、ふじみ野市在住者を対象とした調査では愛着の対象を質問しているのに対して、本研究では愛着を含む関心の対象を質問しているため、対象の範囲が広がったことが関係していると考えられる。大学生が「景観・風景」を魅力として捉えた6件のうち4件が「空」であり、綺麗さやガラスに映った神秘的な様子を撮影していた。空の様子は地域特有の景観・風景ということは少なく、地域での愛着の対象とはなりにくい、綺麗さなどから関心を持つ対象として捉えられると考える。あるいは、景観・風景の中にある特定の対象（例えば、自然）に注目してそれを愛着の対象として捉えることで、景観・風景が在住者の愛着の対象として少数意見だった可能性も考えられる。「シンボル」も大学生だけが挙げた項目であったが、珍しいものや見ていて面白いものなどの外見の印象から大学生は関心を持っており、この項目も関心の対象にはなるが地域への愛着の対象としては捉えられにくいものと思われる。在住者が比較的多く挙げた項目の中で大学生があまり関心対象として捉えていなかった項目が「人とのつながり」である。ふじみ野市在住者を対象とした調査での回答者は年配者が多く居住歴も長いため、大学生と比べると人とのつながりを形成する機会が多くその期間も長いため、愛着の対象として挙げられたと考えられる。

次に、愛着や関心を持った理由について考察する。在住者が最も多く挙げた理由は「人との交流」で回答者の半数である8名から8件あったが、本研究では3分の1の3名から3件（表3）と違いが見られた。在住者は、愛着の対象「人とのつながり」そのものに対してだけでなく、「施設」や「自宅周辺」に愛着を感じる理由としても「人との交流」が挙げられていた。本研究においても、人との交流が生まれる場として祭り（「イベント」）や公園（「施設」）に関心を示しており、人とのコミュニケーションを介してその対象に愛着や関心を感じるようになる可能性が年代を問わず認められる傾向があるが、大学生と比べると在住者の方が人とのコミュニケーションが対象に愛着を持つ理由となりやすい。また、大学生が最も多く挙げた理由は「景観・風景の良さ」であったが、在住者は「風景の良さ」を理由として挙げたのは少数であった。これは「地域において関心を持った対象（本研究）」と「地域に愛着を持つ対象（ふじみ野市在住者を対象とした調査）」という質問内容の幅の違いによるものと考えられ、綺麗・神秘的といった「関心」を持つ対象にはなり得ても、地域に対する「愛着」の対象にはなりにくいと考えられる。

「自然環境の良さ」は、在住者からも2番目に多く挙げられた理由であり同様の傾向だった。在住者の回答では「自然」に愛着を持った理由からのみ抽出されたが、本研究では「歴史」や「施設」などに対して関心を持った理由からも抽出された。これらは、歴史のある場（城跡）や公園という施設内にある自然に対して自然環境の良さを感じていることから、「自然環境の良さ」は「自然」と強く関連し、他の愛着・関心対象との関連性は少ないと考えられる。癒される、落ち着く、残していきたいなどの「心の空間」については、在住者、大学生に対する調査において「自然」と「施設」から抽出されている。癒しや落ち着き、なくてはならない、残していきたいと感じさせるものに対して、年代によらず愛着や関心を持ちうることを示された。

課題として挙げられた理由についてみると、本研究では道路に対する「危険性」（道路の見通しの悪さや歩道の狭さによる危険性の懸念）や「景観・風景の悪さ」（建物建設に伴う景観の悪化や電線にとまる鳥）が見られた。ふじみ野市在住者を対象とした調査では、より愛着を感じるまちとするために必要な改善点も質問しており、その回答として「町並みの改善」が最も多く、具体的には「駅前店舗構成の改善」や「駅前の景観づくり」、「ゴチャゴチャした町並みの改善」などの町の景観に対する意見が挙げられた一方、道路の危険性の改善に対する意見は少数であった。両調査において回答者が着目している視点は異なるが、年代によらず景観・風景の改善の必要性を感じているといえよう。

大学生を対象とした本研究の調査では関心のあるものをカメラで撮影するという行為が必要のため、場所に依存することなく日頃から目にとまりやすくいつでも撮影可能な空の写真が多く提出され、「景観・風景」が関心対象として多く挙げられた可能性が考えられる。一方、「人とのつながり」は友人など特定の人物を撮影する必要がある、いつでも撮影可能な状況にあるわけではないため、ふじみ野市在住者を対象とした調査と比較して、関心対象として「人とのつながり」が少数意見であったり、関心を持つ理由に「人との交流」という意見が少ないという結果が得られた可能性も否定できない。

5. まとめ

本研究では、将来における地域社会の担い手として期待される大学生を対象として、地域において関心を示す対象とその理由を分析した。次いで、ふじみ野市在住者を対象とした愛着に関する研究と比較を行い、年代の違いによる愛着・関心対象の共通点や相違点を考察した。

大学生が地域において関心を持つ対象として「自然」が多く、60代以上の回答者が大部分を占める在住者の調査と同様の結果が得られ、自然の豊かさや緑に囲まれている雰囲気は、年代を問わず愛着や関心を持つ対象となりうることが示された。また、大学生が関心を持つ対象として挙げた項目の中で、在住者の愛着の対象として目立たなかった項目としては、「景観・風景」と「シンボル」が見られた。大学生は「景観・風景」の中で特に空に対して関心を示す傾向が見られたが、これは「関心を対象とするか、愛着を対象とするか」という質問内容の違いや対象の撮影のしやすさに影響を受けてはいるが、「景観・風景」は関心の対象にはなり得ても、愛着の対象にはなりにくい傾向が理解された。また、大学生が「シンボル」に関心対象として挙げたことは、珍しいものや見ていて面白いものなど、大学生は外見の印象から関心を持つことが理解でき、これは年代の違いによる地域に対する視点の相違を反映していると考えられる。一方、在住者は「人との交流」が行われる場としての施設や自宅周辺に対して愛着を持つとの意見があるのに対して、大学生は「人との交流」が対象に関心を持つ理由となる意見は少数であり、人とコミュニケーションを取る機会の少なさによるものと理解される。

観光名所や自然のある場、桜の名所などが掲載された観光マップが自治体などから発行され

ている。自然のある場や桜の名所などは愛着や関心の対象であり、地域に関心を持たせる効果を持ちうるが、これらに加えて、珍しい・面白いものなどの若い世代が関心を持つようなシンボリックな存在を掲載することも、若い世代にも「まち」に興味を持ってもらうための手段とならないだろうか。

本調査の回答者数は9名と少なく、今回の結果をもって大学生の関心対象を一般化することは難しい。また、携帯電話のカメラで関心対象を撮影するという調査方法を採用したが、この方法は記入式のアンケート調査よりも簡易的であり協力が得やすい反面、関心の対象となる場へ行く必要があり、回答者の関心対象すべてを収集できなかった可能性も考えられる。今後はより多くの回答者から意見を収集するとともに、調査紙への記入式アンケートによる方法も併用し、より多くの意見を収集して関心の対象を分析していきたい。

参考文献

- 酒井聡一（2010）. ふじみ野市における地域への愛着を構成する要素についての調査と分析, 文京学院大学人間学部研究紀要, 第12巻, 1-9.
- 総務省統計局（2007a）. 平成18年社会生活基本調査「生活行動編」結果の概要
(<http://www.stat.go.jp/data/shakai/2006/pdf/gaiyou.pdf>)
- 総務省統計局（2007b）. 平成18年社会生活基本調査「ボランティア活動（全国）」調査票Aに基づく結果 表番号80 (http://www.e-stat.go.jp/SG1/estat/GL08020101.do?_toGL08020101_&tstatCode=000000000322&requestSender=search)
- 鈴木春菜・藤井聡（2008）. 地域愛着が地域への協力行動に及ぼす影響に関する研究, 土木計画学研究・論文集25-2号, 357-362.
- 「ボランティア白書2003」編集委員会（2003）. ボランティア白書2003, 社団法人日本青年奉仕協会, 202.

謝辞

調査にご協力くださいました皆様に、この場を借りてお礼申し上げます。

(2011.10.5 受稿, 2011.11.2 受理)